

平成 19 年度稲城トレーニングセンター選考会実施報告書

2007年2月17日

稲城トレーニングセンター

平成 19 年度稲城トレーニングセンター選考会実施報告

1. 実施日 2007 年 1 月 13 日(土)

2. 実施時間 新 6 年生 9 : 00～12 : 00、 新 5 年生 13 : 30～16 : 30

3. 実施会場 新 6 年生 平尾小グラウンド、 新 5 年生 長峰小グラウンド

4. 参加者

予め各チームから推薦された選手に参加資格が与えられた。参加者数は、以下の通り。

新 5 年生 39 名 (内 GK 登録 3 名)、新 6 年生 39 名 (内 GK 登録 1 名)

5. 定員

現状の稲城トレセンの体制およびスタッフ数を考慮し、今年度においては新 5・6 年生とも 26 名を上限とし、結果として新 5 年生は 26 名、新 6 年生は 25 名を合格とした。

(※合格者名簿については、個人情報に配慮し、別途公開する)

6. 選考方法について

普段の実力を正当に評価できるようにするため、選手的能力を出来るだけ多面的に捕らえた複合評価とした。

(1)定量的評価：クローズドスキル（＝数値化できる種目）で構成する。具体的メニューは別途解説。

(2)定性的評価：オープンスキル（＝プレーそのもの）で構成する。ゲームでの観察が主体となる。

7. セレクショントレーニングメニュー

(1)リフティング

・・・・・・【別添資料参照】

①インステップ自由に (5 分以内)

②インステップ交互に (3 分以内)

③タッチライン間(50m)を落とさずに移動 (5 分以内)

(2)ドリブルスラローム (ジグザグドリブル)

・・・・・・【別添資料参照】

カラーコーン 1m 間隔×10 本の往復のタイムトライアル。2 回トライして、タイムの早い方を採用。

(3)パス&コントロール

10～12m のグリッド (正方形) を作り 4 箇所に分かれてボール 1 個でパス回し(時計回り・逆周り)

①ツータッチ (ワントラップ&パス) ②ワンタッチ (ダイレクトパス)

(4)シュート (キック)

スタッフ(トレセンコーチが) ゴールポスト脇から前方にフィードしたボールを走り込んでシュート。

①右インステップ (2 本) ②左インステップ (2 本)

(5)ゲーム

オールコートで 1 チームは FP 8 人+GK で編成。7 分のゲームを各チーム 2 試合ずつ対戦。

□評価上の視点

①仕掛けの意識とオン・ザ・ボールのテクニック

②1 対 1 の強さ (フィジカルコンタクト)

- ③コミュニケーション（声）
- ④オフ・ザ・ボール時の動き
- ⑤ファーストタッチのクオリティ
- ⑥積極性、闘争心
- ⑦コーチング（声）【GK】⑧ポジショニング【GK】⑨守備範囲【GK】⑩技術と反応【GK】
- ⑪体格：体の大きさだけのパワープレーに陥っていないか、縦のスピードだけで、仕掛け（勝負し）ていないか

8. 総評（成果と課題）

今回のトレーニングメニューに従って、成果と課題をまとめてみた。来年度もほぼ同様のメニューでセクションが構成される事が予想されるため、今後のトレーニングの参考にして頂きたい。

(1)リフティング

合格者を含めた参加選手全体のレベル感としては、決して満足できる結果とは言えないものであった。リフティングがスキルの全てではないが、基礎的なスキルのバロメーターであるのは誰もが認める事を考えると、各チームにおいて今まで以上にリフティングに力点を置いたトレーニング作りや選手への指導を進めて頂きたい。但し、トレーニングの効率性を考えると週次の全体練習のメニューに組み込むよりも、日々の選手の自主的な個人練習へいかに移行させるかに腐心して頂きたい。

(2)ドリブルスラローム（ジグザグドリブル）

一つ一つのタッチのしなやかさを生み出す膝の曲がりが少ない選手が多かった。加えて間接視野でのボールコントロールが出来ない（即ち顔を上げられない）姿勢の悪い選手も予想以上に多かった。また、気になったのは、効き足だけでジグザグドリブルをする選手、逆足のタッチが効き足に比べてかなり劣る選手も相当数見られた。日常からある程度は逆足でのボールコントロールを促し、プレーバランスを高める事が重要である。

(3)パス&コントロール

ファーストタッチにおいて、ボールが来る方向および次のプレーの方向を意識した左右の足の選択が整理できていない選手が以外に多かった。有効な視野を確保するために、ボールが来るサイドと逆の「遠い方の足」で体を開いて（half turn して）コントロールする事を習慣にさせて欲しい。パスについては、リフティングにも通じる面はあるが、ボールの芯を蹴ることを日常から意識させて欲しい。

(4)シュート（キック）

カー一杯蹴りこもうとする選手が多かった。シュートはゴールへのパス（ラストパス）の意識を普段のトレーニングでも徹底してもらいたい。加えて、シュート後の詰める作業も是非習慣として欲しい。『GK がはじく かも知れない』『クロスバーに跳ね返る かも知れない』の意識も大切である。

(5)ゲーム

①仕掛けの意識とオン・ザ・ボールのテクニック

仕掛けの意識は高かったと思う。シザース、スモール・ビッグブリッジ、ドラッグバックなどが見られた。相手ゴール前での落ち着いたフェイント（マシューズ）で2人をかわしてシュートを決めた選手もいた。徐々にではあるが、稲城の選手のテクニックが向上していると感じられた。各チームの指導者が『チームとしての勝利』より『個の力』を重視したトレーニングに軸足を移してきている事が、着実に選手のパフォーマンスに現われて来ていると思われる。一方で、浮き球のコントロールには多くの選手にまだ課題が見られた。

②1対1の強さ（フィジカルコンタクト）

数年前に比べて身長など体格は良くなったと思うが、従来通りスタンスが狭く腰高で踏ん張りの利かないプレーが多かった。スクリーンのスキルにも一層の改善が必要である。

③コミュニケーション（声）

挨拶を含めて新5年生の声の大きさと元気には、驚きと同時に今後への期待が高まった。声はコミュニケーションの第一歩であり、良い習慣として是非継続指導して欲しい。

④ファーストタッチのクオリティ

ファーストタッチのクオリティを高める、『事前の観察』の必要性からまずは認識するべきである。

⑤GK

声も比較的良く出ていた。相手のエリアに攻め込んでいる時は、積極的にペナルティエリアの外に位置して、ディフェンスラインの後方のスペースをカバーする危機意識の高い選手もいた。

9. 最後に

今回のセレクションのために、グラウンド提供および用具の貸し出しに加えてピッチ作りをして頂いた、FC 平尾と長峰 FC のスタッフの方々には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

以 上

2007 年 2 月 17 日

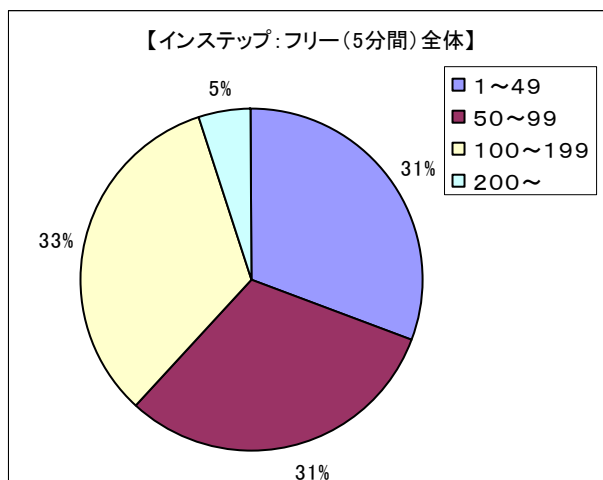
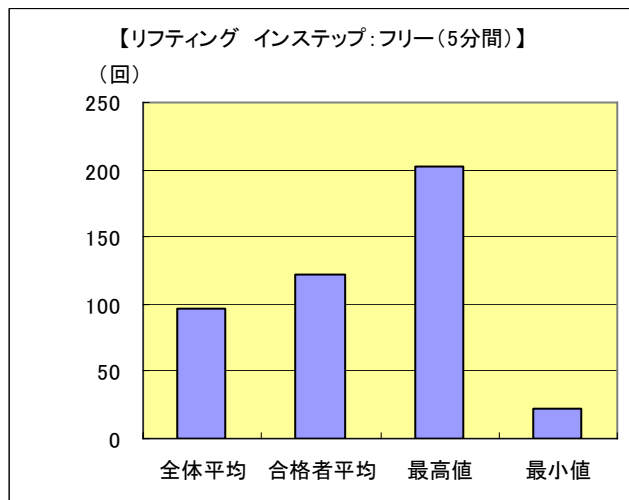
稲城トレセン 6 年生主任コーチ

佐藤 格史

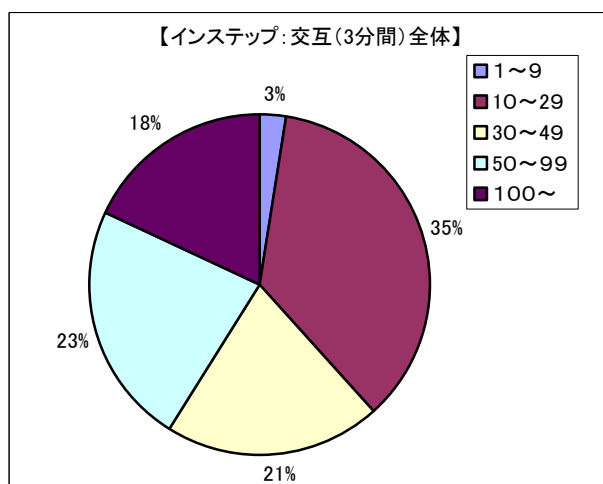
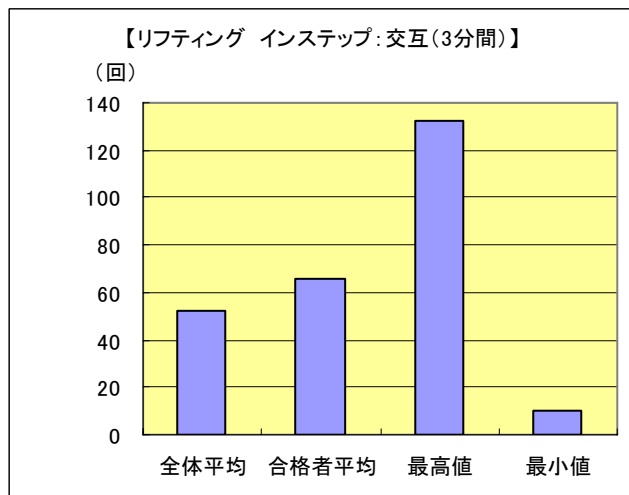
【参考資料：リフティングおよびドリブルのテスト結果と分析(新6年生)】

6-(1)リフティング

①インステップ自由に (5分以内)



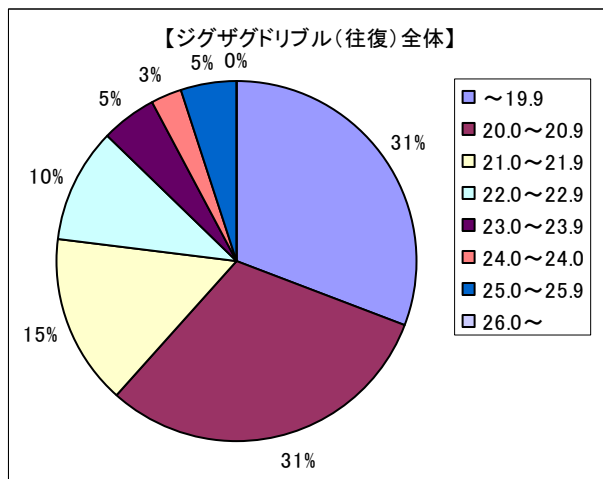
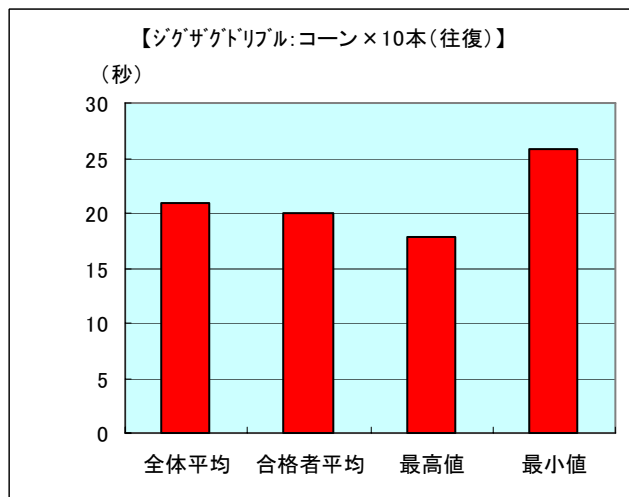
②インステップ交互に (3分以内)



③タッチライン間(50m)を落とさずに移動 (5分以内)

◆ 39人中成功者24人(成功率:61.5%)

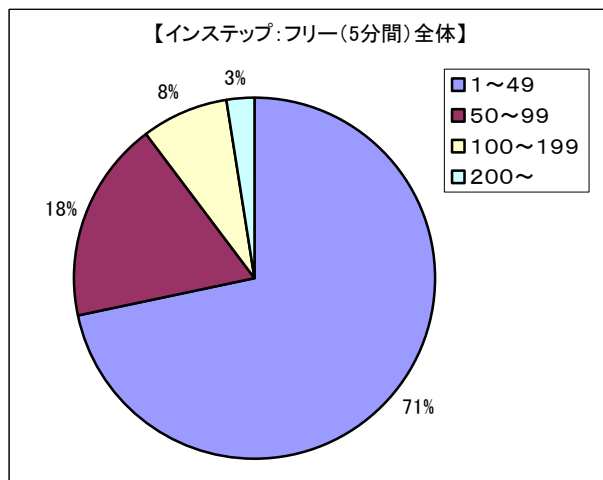
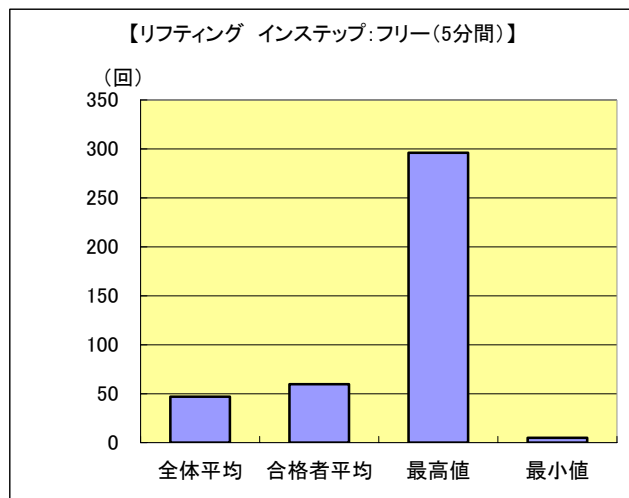
6-(2)ドリブルスラローム (ジグザグドリブル)



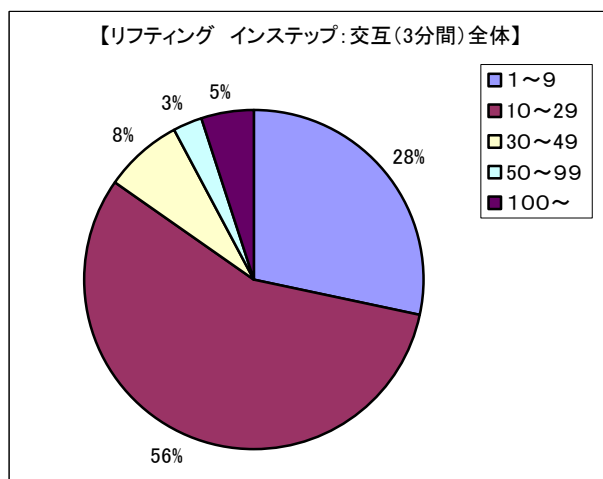
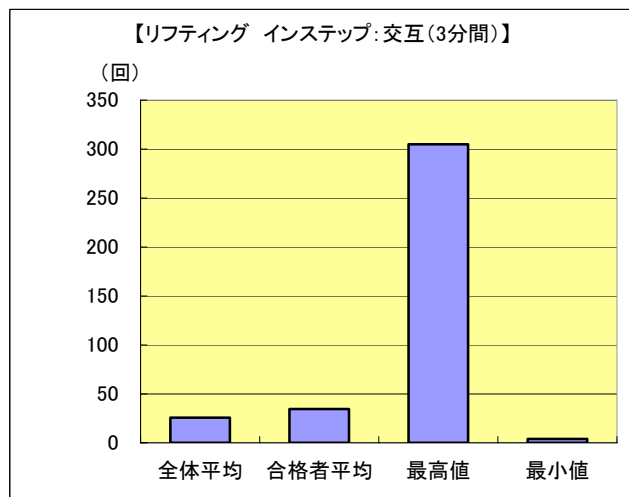
【参考資料：リフティングおよびドリブルのテスト結果と分析(新5年生)】

6-(1)リフティング

①インステップ自由に (5分以内)



②インステップ交互に (3分以内)



③タッチライン間(50m)を落とさずに移動 (5分以内)

◆ 39人中成功者6人 (成功率: 15.4%)

6-(2)ドリブルスラローム (ジグザグドリブル)

